

5390

東証2部

宇部マテリアルズ株式会社
2012年3月期 第2四半期決算概要

11月18日に宇部マテリアルズ株式会社(以下、宇部マテリアルズ)の2012年3月期 第2四半期決算説明会が行われました。以下、その概要をご案内申し上げます。

2012年3月期 第2四半期累計期間 連結決算概要

【表1】にあるとおり、当第2四半期累計期間(=上期)における売上高は、前年同期比-4.3%の減収となった。これは主に、震災の影響から被災ユーザーの生産停止期間が長引き、宇部マテリアルズの主要顧客ドメインである鉄鋼業界、製紙業界を中心に、生産活動が鈍化したことによる。利益面では、固定費負担が大きいカルシア製品の大幅出荷減により、営業利益、経常利益は20%以上の減益となった。

●【表1】2012年3月期 上期 連結決算概要 (前年同期比較)

(百万円)	11/3月期 上期		12/3月期 上期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	21,296	100.0%	20,375	100.0%	-921	-4.3%
売上総利益	5,469	25.7%	5,226	25.6%	-243	-4.4%
販売管理費	3,890	18.3%	4,018	19.7%	128	3.3%
営業利益	1,578	7.4%	1,208	5.9%	-370	-23.4%
経常利益	1,591	7.5%	1,207	5.9%	-384	-24.1%
当期純利益	783	3.7%	711	3.5%	-72	-9.2%
研究開発費	275	1.3%	303	1.5%	28	10.2%
設備投資額	633	3.0%	875	4.3%	242	38.2%
減価償却費	1,050	4.9%	1,136	5.6%	86	8.2%
為替(円/ドル)	88	-	81	-	-	-8.0%
WTI(ドル/バレル)	78	-	96	-	18	23.1%

注：表はいずれも宇部マテリアルズ(株)の開示データをもとに、(株)トリアスにて作成

当初予想比較は【表2】にあるとおりだが、売上高は予想比 -4.3%の減収となった。これは、国内粗鋼生産量の減少による影響が大きい。粗鋼生産量は、カルシア事業を中心に、同社業績が影響を受ける指標だが、震災や円高の影響で自動車生産台数が減少し、会社想定 of 1.1 億トン/年に対し、実績見込みで1億トン/年にとどまった。マグネシア事業において、被災同業者の応援生産などのプラス要因もあったが、それ以上にカルシア製品の出荷減が響いた。

一方、営業利益、経常利益はそれぞれ、予想比 16%強の増益となった。これは、原油価格(WTI)の予実比較を見てもわかるとおり、製造原価に影響する燃料価格上昇が想定を下回った一方、前年同期比では大きく上昇した燃料価格を反映した製品価格に、値上げが実現できたことによる。また、結果的にカルシア製品よりも利益率の高いマグネシア製品の出荷比率が高くなったことによる粗利率の改善や、売上減による輸送費

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

などの販売管理費の減少もあった。このほか、恒常的に注力している燃料の置き換えや固定費圧縮などの効果もあった。

●【表2】2012年3月期 上期 連結決算概要（当初予想比較）

(百万円)	12/3月期 上期 (予想)		12/3月期 上期 (実績)		予想比	
		構成比		構成比	増減額	増減率
売上高	21,300	100.0%	20,375	100.0%	-925	-4.3%
売上総利益	5,300	24.9%	5,226	25.6%	-74	-1.4%
販売管理費	4,410	20.7%	4,018	19.7%	-392	-8.9%
営業利益	1,040	4.9%	1,208	5.9%	168	16.2%
経常利益	1,040	4.9%	1,207	5.9%	167	16.1%
当期純利益	620	2.9%	711	3.5%	91	14.7%
為替(円/ドル)	85	-	81	-	-	-4.9%
WTI(ドル/バレル)	115	-	96	-	-	-16.6%

セグメント別事業動向

マグネシア事業

主要製品の耐火物向け合成マグネシアクリンカーは、従来安価な中国産天然マグネシアクリンカーと競合してきた。昨年、中国政府が資源の囲い込み策としてマグネシアクリンカーの輸出を制限したことに加え、景気循環的な需要の回復もあり、市場における需給がタイト化した。その結果、中国産天然マグネシアの単価が上昇していたが、昨今中国市場の不透明感から、足元では中国産マグネシアクリンカーの単価が下落し始めている。これまで、中国産クリンカーの価格上昇に伴い、宇部マテリアルズ製品へのシフトが進んでいたが、再度中国産クリンカーへのニーズが出始めている状況にある。また、鉄鋼業界向けやセメント業界向けの耐火物原料用の出荷が国内・海外向けとも低調になっていることから、売上高は前年同期比-0.7%の減収となった。

一方、水酸化マグネシウムについては、震災により被災した同業者の代替出荷による出荷増加が見られたほか、震災による電力不足懸念から、自家発電向けの排煙脱硫用途の需要が増加し、売上高は前年同期比 17.2%の増収となった。また、まだ規模は大きくないが、ケミカル用途向け酸化マグネシウムの出荷も増加。土壌固化材等の環境改善用途向けの出荷も堅調に推移した。

カルシア事業

粗鋼生産を中心としたマクロの生産活動の影響をより大きく受けるカルシア事業は、金融危機後の回復を受け、前期は生石灰、消石灰を中心に販売が回復したが、震災の影響や円高による鉄鋼業界の輸出の減少から出荷が減少した。

ファイン事業

積層セラミックコンデンサー(MLCC)用に使われる超高純度炭酸カルシウム (CS) 関連は、スマートフォン

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

や iPhone、iPad といった高機能携帯機器向け出荷の拡大もあり、前年同期比 36.6%増と、売上高は堅調に伸長した。一方、プラズマ TV に使われる気相法マグネシアについては、大手ユーザーの減産の影響で、前年同期比横ばいの売上水準に留まった。また、自動車生産量の減少で、自動車の軽量化などに用いられる樹脂用フィラーのモスハイジの出荷が減少した。

●【表 3】セグメント別主要製品販売実績

(百万円)	10/3月期 上期		11/3月期 上期		前年同期比	
		構成比		構成比	増減額	増減率
マグネシア事業	7,630	35.8%	8,266	40.6%	636	8.3%
マグネシアクリンカー	3,776	49.5%	3,751	45.4%	-25	-0.7%
水酸化マグネシウム	3,572	46.8%	4,188	50.7%	616	17.2%
その他	281	3.7%	327	4.0%	46	16.4%
カルシア事業	11,513	54.1%	9,841	48.3%	-1,672	-14.5%
生石灰	7,795	67.7%	6,511	66.2%	-1,284	-16.5%
消石灰	1,619	14.1%	1,329	13.5%	-290	-17.9%
タンカル	464	4.0%	484	4.9%	20	4.3%
土質固化材	402	3.5%	400	4.1%	-2	-0.5%
製鋼用脱硫剤	255	2.2%	272	2.8%	17	6.7%
その他	895	7.8%	770	7.8%	-125	-14.0%
東北鉄興社	80	0.7%	75	0.8%	-5	-6.3%
ファインその他事業	1,817	8.5%	1,910	9.4%	93	5.1%
CS(超高純度炭酸カルシウム)関連	333	18.3%	455	23.8%	122	36.6%
気相法マグネシア	620	34.1%	621	32.5%	1	0.2%
モスハイジ	220	12.1%	179	9.4%	-41	-18.6%
その他	330	18.2%	306	16.0%	-24	-7.3%
生活関連用品	314	17.3%	349	18.3%	35	11.1%
その他の事業(貨物)	335	1.6%	356	1.7%	21	6.3%
合計	21,296	100.0%	20,375	100.0%	-921	-4.3%

通期業績見通し

外部環境の不透明感はあるものの、通期業績予想は変更しない。ただし、震災の影響や粗鋼生産の見通しを現状の1億トン/年に引き下げたことから、セグメント別業績予想を見直し、その内訳を修正した。

●【表 4】2012年3月期 連結業績予想

(百万円)	11/3月期		12/3月期(予想)		前期比	
		構成比		構成比	増減額	増減率
売上高	42,550	100.0%	43,700	100.0%	1,150	2.7%
売上総利益	11,151	26.2%	11,220	25.7%	69	0.6%
販売管理費	7,913	18.6%	8,670	19.8%	757	9.6%
営業利益	3,238	7.6%	2,550	5.8%	-688	-21.2%
経常利益	3,270	7.7%	2,540	5.8%	-730	-22.3%
当期純利益	1,667	3.9%	1,430	3.3%	-237	-14.2%
研究開発費	585	1.4%	620	1.4%	35	6.0%
設備投資額	2,492	5.9%	2,150	4.9%	-342	-13.7%
減価償却費	2,196	5.2%	2,320	5.3%	124	5.6%

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

具体的には、マグネシア事業は、鉄鋼業界・セメント業界向け出荷の回復やケミカル用の堅調な出荷を見込み、5月10日付予想15,400百万円に対し、今回16,800百万円に上方修正した。一方、カルシア事業は、生石灰の鉄鋼需要回復が見込まれるが、5月10日付予想までは届かない見込みであり、昨年伸長した消石灰の防疫用途への出荷減少から、同23,700百万円から22,300百万円に下方修正した。ファイン事業は3,925百万円を据え置いた。

●【表5】セグメント別主要製品販売予想

(百万円)	11/3月期		12/3月期(11/4付予想)		前期比	
		構成比		構成比	増減額	増減率
マグネシア事業	15,638	36.8%	16,800	38.4%	1,162	7.4%
マグネシアクリンカー	7,667	49.0%	7,739	46.1%	72	0.9%
水酸化マグネシウム	7,354	47.0%	8,261	49.2%	907	12.3%
その他	617	3.9%	800	4.8%	183	29.7%
カルシア事業	22,741	53.4%	22,300	51.0%	-441	-1.9%
生石灰	15,339	67.5%	15,234	68.3%	-105	-0.7%
消石灰	2,941	12.9%	2,801	12.6%	-140	-4.8%
タンカル	995	4.4%	1,002	4.5%	7	0.7%
土質固化材	944	4.2%	929	4.2%	-15	-1.6%
製鋼用脱硫剤	530	2.3%	518	2.3%	-12	-2.3%
その他	1,827	8.0%	1,656	7.4%	-171	-9.4%
東北鉄興社	165	0.7%	160	0.7%	-5	-3.0%
ファインその他事業	3,489	8.2%	3,925	9.0%	436	12.5%
CS(超高純度炭酸カルシウム)関連	659	18.9%	809	20.6%	150	22.8%
気相法マグネシア	1,161	33.3%	1,224	31.2%	63	5.4%
モスハイジ	461	13.2%	504	12.8%	43	9.3%
その他	647	18.5%	763	19.4%	116	17.9%
生活関連用品	561	16.1%	625	15.9%	64	11.4%
その他の事業(貨物)	681	1.6%	675	1.5%	-6	-0.9%
合計	42,550	100.0%	43,700	100.0%	1,150	2.7%

環境関連事業について

宇部マテリアルズの次期成長を支える戦略事業に環境関連事業がある。当中間期の環境関連製品の売上動向は以下のとおりだった。

マグネシア事業

自家発電向け排煙脱硫用途につき、震災の影響から、同業の日本海水いわき工場への応援出荷や、関東・東北地区の一般用・企業用電力向け、ならびに自家発電会社向け出荷があった。この用途については、長期的見通しは不透明感があるものの、下期は昨年実績を上回る見込み。

カルシア事業

排ガス処理用途は、大口ユーザーの需要減少から、売上が減少した。ゴミ焼却場向けについては、上期売上が減少したが、下期は前期並みの水準を見込んでいる。また、土壌固化用途については、震災復興の

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

特需への期待はあるが、当上期は、ガレキ除去などが優先され、入札物件に遅れが出ている。来期以降、どの時点で特需が顕在化するかについて、引き続き不透明感がある。

●【表6】2012年3月期 中間期 環境関連売上高実績

(百万円)	製品名	10/3月期	11/3月期	前年同期比	
		上期	上期	増減額	増減率
マグネシア事業		3,003	3,664	661	22.0%
発電所排煙脱硫	水マグスラリー	2,916	3,560	644	22.1%
水質浄化、中和	クリアウォーター、酸化マグ	35	39	4	11.4%
土壌固化	舗装名人、改良名人	51	65	14	27.5%
カルシア事業		2,769	2,227	-542	-19.6%
ごみ焼却場排ガス処理	カルブリードSII・EX、消石灰	1,073	917	-156	-14.5%
水処理(中和)	タンカル、消石灰	118	101	-17	-14.4%
土質固化	グリーンライム、生石灰、消石灰	1,577	1,209	-368	-23.3%
合計		5,772	5,891	119	2.1%

海外事業展開について

8月27日付でリリース発表がなされたが、宇部マテリアルズでは、中国の石灰製造大手「青陽海億鋳業化工有限公司」の株式を取得し、双日 43.77%、同社 7.23%、香港順遠投資有限公司 49.0%にて持ち株会社「サンライムリミテッド(Sunlime Ltd.)」を設立した。この合併会社を通じて、中国での石灰石資源を確保するとともに、石灰製造事業に参入する。石灰製品の世界需要は3億トン、約2兆円超の市場規模があるが、そのうち約2億トンが中国需要で、年間10%の成長率で伸長している。今回は、同社初の海外事業であり、3~5年を目処に中国市場の特性や顧客動向について、まずはノウハウ取得を目指している。なお、中国の他にも、市場成長が見込まれるインド、東南アジアの市場で、石灰製品の製造や販売も視野に入れている。

質疑応答

Q1. 販売管理費の今上期当初予想44億円と実績40億円の差異の背景は？

A1. 出荷減により、カルシア関係の輸送費が減少(270百万円)したこと。労働組合との関係から、人件費が増加する想定でいたが、交渉がスムーズに進んだため、計画を下回る人件費(40百万円)となったこと。また、もろもろの諸経費減(82百万円)が差異の要因となった。

Q2. 来期事業環境の想定は？

A2. 震災の影響による水酸化マグネシウムの応援出荷は減少すると見ている一方、自家発電分の出荷は増加することを視野に入れており、マグネシア事業の来期売上高は今期並みを想定している。カルシア事業については、今後の粗鋼生産量の推移が焦点になると考えている。足元は年初よりも減少を想定しており、来期も大きな増加は見込んでいない。中国経済減速の影響も想定している。ファイン事業については、メーカーによるプラズマディスプレイの生産縮小を織り込み、気相法マグネシアの出荷減を見込んでいる。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

Q3. 中国での石灰石事業参入について、収益化はいつ頃を見込んでいるのか？また、今後出資比率を増やすなどの展開を考えているのか？

A3. 中国への本格進出は、今の段階では想定していない。まずは、中国でのビジネスの仕方や市場環境について、3年程度勉強するための取り組みと捉えている。本事業については、増資した資金約7億円で設備増強を行いながら、腰を据えてじっくり取り組む予定だ。なお、中国事業について、ほかにもいくつかの案件が入ってきているが、やるべきかどうかを十分吟味したいと考えている。☞

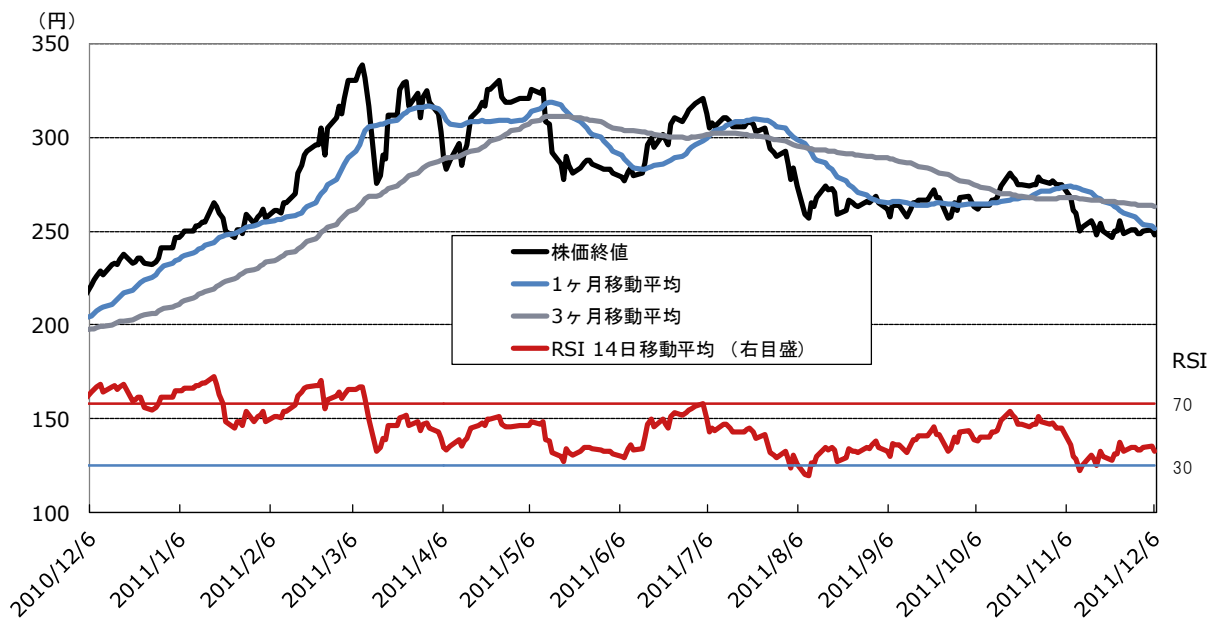
このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

ご参考
● 連結主要指標と業績の推移

連結主要データ			連結主要データ		
発行済み株式数(株)	2011.3月	80,948,148	総資産(百万円)	2011.3月	41,765
うち自己株式数(株)	2011.3月	51,973	自己資本(百万円)	2011.3月	27,228
時価総額(百万円)	2011.12.6	20,075	有利子負債(百万円)	2011.3月	2,492
1株当純資産(円)	2011.3月	336.59	自己資本比率(%)	2011.3月	65.2
ROE(%)	2011.3月	6.3	有利子負債比率(%)	2011.3月	9.2
ROA(%)	2011.3月	4.1	フリーキャッシュフロー(百万円)	2011.3月	2,043
PER(倍)	予2012.3月	14.0	注: ROE=当期純利益÷期首と期末の自己資本の平均		
PCFR(倍)	2011.3月	5.2	ROA=当期純利益÷期首と期末の総資産の平均		
PBR(倍)	2011.3月	0.7	PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)		
株価(円)	2011.12.6	248	日々平均出来高=過去1年間の平均		
単元株数(株)	2011.12.6	1,000	有利子負債比率=有利子負債÷自己資本		
日々平均出来高(株)	2011.12.6	89,439	フリーキャッシュフロー(FCF)=営業CF+投資CF		

連結 (百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株益(円)	1株配(円)
2008年3月期	42,470	2,395	2,441	1,422	17.57	10.00
2009年3月期	45,042	2,413	2,285	1,171	14.48	7.00
2010年3月期	37,577	1,859	1,956	1,084	13.41	5.00
2011年3月期	42,550	3,238	3,270	1,667	20.62	8.00
2012年3月期上期	20,375	1,208	1,207	711	8.79	-
予2012年3月期	43,700	2,550	2,540	1,430	17.68	8.00

注: 2012年3月期予想は、2011年5月10日発表の会社予想

● 株価チャートとRSI


出所: BloombergのデータをもとにTrias作成

注: RSI(Relative Strength Index)とは株価の「買われ過ぎ」や「売られ過ぎ」を指数で表したもので、一般的にRSIが70を超えると高値圏、30以下では安値圏に位置していると言われている

$$RSI = \frac{N \text{日間の値上がり幅平均}}{N \text{日間の値上がり幅平均} + N \text{日間の値下がり幅平均}} \times 100$$

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。